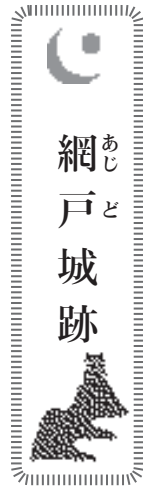


第Ⅲ部

旭市の城郭と居館跡



あじど 網戸城跡

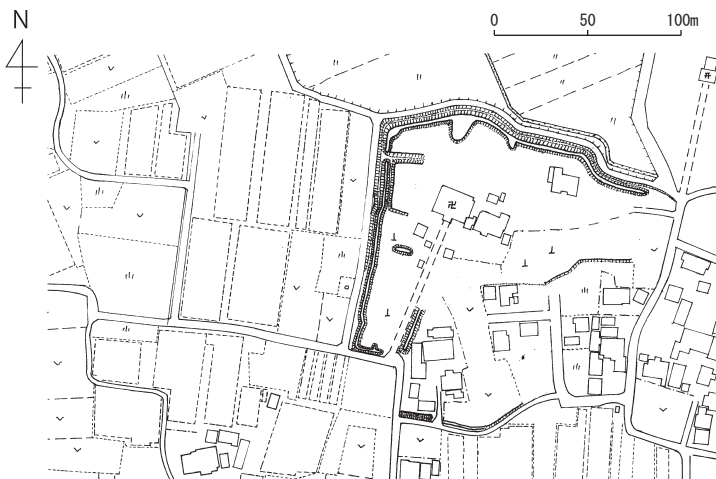
所在地・旭市網戸字城之内

網戸地区北側の微高地上に位置する。室町時代の^{おうえい}心永年間（1394～1418）頃に北条氏の家臣、大橋山城守康忠^{やすただ}が築城したと伝えられている。天正18年（1590）信州木曾から木曾義昌が下総阿知戸一万石に転封された。義昌は当初、近隣の福昌寺を仮陣屋としたのち、翌19年網戸城跡を改修し、居城にしたと伝えられている。

木曾家の菩提寺として建立された東漸寺の周囲に土塁・空堀が残存するので、城跡と考えられていて、『千葉県所在中近世城館跡詳細分布報告書Ⅰ』（1995）も当寺を城跡に比定している。近年、網戸城跡の位置についての研究が進められその全貌が明らかになった。東漸寺は城の中核ではなく、その一部であり曲輪3といいい伝えられているが、寺の周囲に残る遺構は東漸寺の建



東漸寺正門



網戸城跡

『千葉城郭研究』第9号 発行 千葉城郭研究会 2008. 10. 1

立以後に構えられたものも含まれている。

網戸城の主郭は寺の西方の、小字名「城之内」にあつたと思わ

れる。そこは現在

耕作地で遺構は残

存しないが、南方

には「上宿」の集

落が開かれ、城内

へ至る道はクラン

クをなしており、

城の防衛線とし

ての機能をもつて

いたのだろう。ま

た、同地区は聞き取りによると「義昌公の城があつた

所」という。地元でも、この地が網戸城跡と認識さ

れている。なお、「上宿」には義昌の室万里姫と縁の

深い観音寺と淡島大明神がある。



網戸城跡近景（西から）